

今回紹介するのは、「**タデ**」の仲間と「**アケボノソウ**」です。  
別添の写真はいずれも先週、南河内の山野で撮影しました。

### 写真 : イヌタデ

タデ科の一年草で、道端や荒地でも見ることのできる“雑草”です。  
野草に興味のない方でも、「タデ」だけは結構ご存じのようで、「お刺身の“つま”としても有名ですね」と言われたりしますが、実際には栽培品種が使われています。  
なぜならば、野生のタデの葉は辛みが強すぎるからだそうです。  
でも、この「イヌタデ」の葉には辛みはありません。  
辛みがあるのは“**ホントデ**”とも呼ばれる「**ヤナギタデ**」という近縁種です。  
こちらの「ヤナギタデ」の方は、水辺や田んぼの周辺で見ることが多い種ですが、「イヌタデ」に比べ、花の数が極めて少ないですね。  
ちなみに、「**蓼食う虫も好き好き**」のタデは、もちろん「ヤナギタデ」のことを指しています。  
さて、この「イヌタデ」、花穂を集めてバラバラにしたものを、子どもたちが“おままごと”の赤飯として使ってきたようで、“**アカマンマ**”との別名もあります。

### 写真 : イヌタデの花

花と思って見ていた赤い部分をじっくり観察すると...  
とても小さな花が開いていました！  
赤い花びらだと思っていたのは「萼」(がく)で、花が咲き終わった後も鮮やかな色を残したまま果実を包んでいたのです。

### 写真 ・ : ボントクタデ

「ヤナギタデ」に似ているのですが、「イヌタデ」と同様、葉に辛みがありません。  
“ボントク”とは“ぼんくら”と同意で、辛みのない本種を間が抜けていることに例えたのだそうです。  
水辺や湿地を好み、葉の表面に八の字状の黒斑が出ることも多いのも特徴です。

### 写真 ~ : アケボノソウ

比較的湿潤な山地に生育する、リンドウ科の多年草です。  
花の時期はちょうど今頃で、白い花びらに人間が絵筆を使って丹念に彩色したかのような模様ですね。  
この花びらの模様を、ほのぼのと明ける夜明けの星空に見立てての命名だそうです。













